

◆◆◆◆◆ 地域おこし協力隊活動レポート ◆◆◆◆◆

地域おこし協力隊とは、大都市圏に住んでいた方が、地方に移住し、地域の活性化を図るとともにその地での自立定住を目指す取り組みです。協力隊員の紹介、活動内容等をご紹介します。

vol.19 (担当) 暮林 まどかさん

いよいよ10月末に、協力隊3年間の任期終了を迎えます。
広報今月号と来月号は暮林まどかが最後のレポートを担当します。

ミッションは長瀬町の新しいお土産作り

長瀬町の地域おこし協力隊第1号の私に、課せられたミッションは新しい長瀬町のお土産作り。移住者である私だから見える「長瀬おもしろい!」と、地元のみなさんが持つ「長瀬いいとこだいな〜」が合わさったときに、新しいものが生まれるのではと思い、いろんなことを感じるため、とにかく町中を歩き回りました。

畑の直送便と、花梨のスパイスカレー

直売所に卸している方や、自家菜園の方…小規模ながらも大切に育てられている長瀬町の畑の野菜たちに、他にはない魅力を感じたんです。そして畑の直送便を立ち上げ、その野菜から作られる加工品たちも商品として世に出すことにしました。畑や道中で落ちたままになっているカリンにも、新しい可能性を感じ「カリンあめ」と「カリンのスパイスカレー」も商品にしました。新しい長瀬町の魅力の一つとして、大切に育てていきたいのでぜひ、みなさま、食べてみてくださいね。次号では私の任期終了後のことや、みなさまへの最後のご挨拶を書きたいと思います。(続く)



今月のいいとこ長瀬

「長瀬町の 七草寺 がスキ!」

町内7カ所にあるお寺にはそれぞれ花が植えられていて、秋の訪れを告げてくれます。 (R・Yさん)

「編集者コメント」

日本では古来より、春と秋に芽生える草花を、それぞれ七草として食べたり鑑賞したりと言った形で愛でてきました。奈良時代の歌人・山上憶良は、「秋の野に やまのうえのおくら 咲きたる花を およびを 指折り かき数ふれば くさ 七種の花」(万葉集巻8の1537)と詠っています。

長瀬町では、昭和55年11月、「長瀬七草寺霊場会(秋の七草霊場会)」が発足し、この「七草(種)の花」が一ヶ寺ごとに境内に育てられました。長瀬の新しい魅力をもつ目玉として開発されたものであり、当時、全国初の企画として内外の注目を浴びました。

この9月、長瀬七草寺を訪れて、日本古来からの初秋の代表的な鑑賞花の美しさに感動し、心のやすらぎをおぼえてはいかがでしょうか。

町を歩きながら秋を感じられるのは、長瀬町のいいとこ!



葛 (遍照寺)



桔梗 (多宝寺)

花	観賞場所	開花時期
萩	洞昌院	7月中旬～ 9月下旬
尾花	道光寺	7月下旬～ 10月上旬
葛	遍照寺	8月上旬～ 9月中旬
撫子	不動寺	7月下旬～ 10月上旬
女郎花	真性寺	7月中旬～ 9月下旬
藤袴	法善寺	9月上旬～ 10月上旬
桔梗	多宝寺	7月下旬～ 9月下旬

※開花時期は例年の目安であり、天候等によって前後する場合があります。